

トレーサーからみたモンゴル・ヘルレン川流域における地下水涵養機構

Recharge mechanism of groundwater revealed by tracer approach in Kherlen River basin, eastern Mongolia

安部 豊[1]; 田中 正[2]; 辻村 真貴[3]; 嶋田 純[4]; 樋口 覚[5]

Yutaka Abe[1]; Tadashi Tanaka[2]; Maki Tsujimura[3]; Jun Shimada[4]; Satoru Higuchi[5]

[1] 筑波大・生命環境研・地球環境; [2] 筑大・地球; [3] 筑波大・地球; [4] 熊本大・理・地球科学; [5] 熊大・院・自然科学

[1] Geo-Environmentai Sci., Life and Environmental Sci., Univ. of Tsukuba; [2] Inst. Geosci., Univ. Tsukuba; [3] Inst. of Geosci., Univ. of Tsukuba; [4] Dept. of Earth science, Kumamoto Univ.; [5] Grad. of Sci. and Tech., Kumamoto Univ.

<http://www.geo.tsukuba.ac.jp/hydro/mktsuji/index.htm>

モンゴル・ヘルレン川流域において、地下水涵養機構、ならびに地下水流動系を明らかにする事を目的に調査・採水を行った。降水の同位体比の高度効果から、ヘルレン川の本流の涵養標高は、主に標高 1750m から 2500m の範囲で涵養された降水で形成されていることが推定される。ヘルレン川本流の水質は、周辺の地下水のそれに比べて低い濃度を示し、流下の際に本流は周辺の地下水との交流が少ないことが示唆された。本流は流下の際に、蒸発の影響を受けていることが $d\text{-excess}$ の値から示唆された。